

NPO 法人全日本シニアアンサンブル連盟 広報誌

ひびきあい

第 18 シニアアンサンブル回全国大会報告

前日には台風 8 号の通過があり、2017 年の台風直撃の第 14 回市川大会のことが頭をよぎりましたが、当日の 6 月 29 日は台風も消え、第 18 回全国大会を迎えることができました。

会場確保の関係で平日の開催でしたが、それでもお客様 350 人を迎え、演奏者 370 名、スタッフ 20 名で合計約 750 名の大会となりました。

各楽団ともこの日に向けて精一杯の練習をしてきて、そのすべてをここに出し切っていることが伺える素晴らしい演奏でした。ホールの立派さも手伝って、演奏者の皆さま大満足だったのではないのでしょうか。そして、自分たちだけではない、各地で同じような仲間が、同じようにアンサンブル活動を楽しんでいるということが実感できたのではないのでしょうか。16 楽団の指導の先生、団員の皆さま、本当にお疲れ様でした。素晴らしい演奏をありがとうございました。

準備側の事情をお話しますと、開催地元の楽団が単独で準備実行するのは負担が大きすぎるという前回までの反省から、今回は全シ連理事で構成される全国大会実行委員会を組織しました。毎回の経験を継続的に活かせるというねらいです。そして地元楽団にやっていただかなければならない準備と仕事を分担し合いました。

今大会の問題点は、タイムスケジュールがタイトになったことです。午前中にリハーサルをして、午後 3 時間程度の演奏会にするために、各団の割り当て演奏時間を 12 分以内、入替えを 3 分とせざるを得ませんでした。このため、実行委員とスタッフは何回も会合をもち準備してきました。さらに前回担当だった市原シニア

が今回は出場せず、全面的にステージスタッフに入ったため、なんとか時間内に納めることができました。ですが、これ以上の短縮は無理というのが実感です。この問題の解決策としては、従来から議論されてきていますが、主に次のようなことが考えられています。

- 申込み順で参加楽団数を絞る
- 全体を数地区に分け、地区ごとの代表楽団が参加
- 全国大会をやめ、分割した地域毎の開催にする
- リハーサルなし（または別会場で本番と同時進行）

で午前中から開催するなど、どうしたら良いか、ぜひ皆さまも考えてみてください。

最後に、地元市川シニアアンサンブルはじめ、ご協力頂いた近隣シニアの皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

全国大会実行委員長
松永恒文

